

利賀っ子だより



R4. 7. 7

○ 「牛乳パックをきれいにたたもうキャンペーン」お試しの後

牛乳パックをみんなできれいにたたんで、できるだけごみを少なくしようと提案があってから、1週間。全員が3種類のパックのたたみ方を試してきてどうだったかの話合いがありました。

すると「きれいに」に対するそれぞれの子供の意識の違いが明らかになりました。見た目の美しさが大事なのか、それとも、1つのパックに入るパックの数が多いことを重視するのか、はたまた、片付けやすさが大切なのか・・・。「お試し期間中に休んでいた人がいるから、みんなで調査したことになる。」「パックをできるだけたくさんぎゅっと詰め込むと、焼却するとき燃えにくいのではないか。」という意見も出てきて話合いは大混乱。

結局、もう一度それぞれの方法で何個パックが入ったのか、入れやすさはどうかを調べることになりました。数字で表した方が分かりやすいと考え、パックをたたんだときの厚さを物差しで測るという子供もいました。結果が出るまでもう少し時間がかかりそうですが、「牛乳パックをたたむ」という行為には確実に意識が向いています。



【何個パックが入ったかな】

○ 小さな命



左のアジサイは、私が登校指導をしていた時に「先生、お花が落ちていました。まだ元気です。」ともらったものです。実は、熊の目撃情報が続くことを心配して、校務助手さんがバス停付近の草を刈ってくださった後にあったものです。バス停付近には、野生のアジサイがたくさん咲いており、気にも留めていなかったのですが、子供にとっては、きれいに咲いていたお花だったのです。

右は1年生のMさんが育てているオクラです。どういうわけか、葉がほとんどなくなってしまっています。それでもMさんは、「今日は、昨日より大きい。」「今日は、虫がいなかった。」と毎朝様子を観察し、大事に育てています。オクラの周りに生えている草は取らないのかと聞いたところ「でも・・・。もったいない。」とのことでした。



いつ、どうやって雑草という概念になるのかは、分かりませんが、子供たちの姿から「命」ということについて考えさせられました。

○ 季節を楽しむ

今年も、学びサポーターさんが竹を準備してくださり、児童玄関前に七夕飾りがあります。「懐かしいなあ。七夕まつりを保育園の頃やったなあ。」と中学生も短冊を書きながら話していました。

四季の移ろいを見逃さず、立ち止まっていくことが豊かな生活をもたらしてくれると感じました。



(高田 一公美)